

すわり込み現場 での話し合いを

水俣病新認定患者が回答

会議室で一時間、患者に限定して会うことの返事をしてきた。

これに対し患者側は、すわり込みの現場を離れることが出来ないのでチツソ正門前での話し合いを希望、時間も一時間では患者の苦しみや悩みはわからないので最低三時間が必要だ、と言っている。

訴訟派患者 家庭も応援

水俣病患者家庭訴訟派（渡辺栄蔵代表、三十三世帯）は七日午後水俣市湯堂の患者宅で例会を開き、十八人の新認定患者家族のチツソ正門前でのすわり込みの応援をすること、年末資金として県、市に一世帯十万円を貸し付けるよう陳情することを決めた。

すわり込みについては自主的に応援することし、今後訴訟派家庭も参加する。年末資金はすでに一昨年から県市に陳情、請願などをしているが実現していない。新認定患者家庭も同時に陳情するが、県に対しては十一、十二両日の熊本地裁での口頭弁論のさい、出向く。また、今月末に予定されているチツソの株主総会への出席は今後決めることになった。

水俣市の自民党支部長徳富昌文氏が発起人となってすすめている署名運動グループは、水俣病新認定患者川本輝夫さん（四〇）らの要望で、患者側と九日市役所で話し合うようにしていたが、患者側は現在チツソ正門ですわり込みをしているためすわり込み現場で話し合いをしたいと七日、回答した。

徳富氏ら各種団体長十六人が発

起人となつてすすめている署名運動に、新認定患者側から「チツソの責任をなせ署名運動の趣旨に入れないのか」との公開質問状が出され、徳富氏らも話し合いに応ずるとして九日午後二時から市役所